



沖津宮祭典



沖津宮現地大祭

悪天候の予報により渡島が心配された五月二十七日、当日は渡島の叶う天候となり、二五〇名の参加者が絶海の孤島沖ノ島に渡り、沖津宮現地大祭が斎行された。我國の命運を掛けた日本海海戦は明治三十八年五月二十七日、沖ノ島の北西、対馬海峡より始まった。その状況は、当時沖ノ島にいた当大社職員も鮮明に日誌に記録している。

沖津宮現地大祭は、この日本海海戦を勝利に導いた先人達を顕彰し、併せて国の平安を祈願するため、毎年、五月二十七日に斎行されている。平素、沖ノ島への渡島は制限されているが、年に一度この日だけは特別に一般の入島を許している。

参拝者は二十六日筑前大島に参集。当大社中津宮にて午後六時から斎行される渡島安全祈願祭に参列し、翌日の渡島の無事を祈念した。祭典後、高向宮司より挨拶があり、その後引率の神職から説明・諸注意を受け各自大島の宿に参籠した。

悪天候の予報により渡島が



海中での禊



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

余滴

巳年の今年も半ばまで来たが、蛇を巡る故事として著名なもので三蛇み^{さんへび}が思い浮かぶ。三蛇みとは、古来蛙は蛇を、蛇は蛤^{かき}を、蛤は蛙を恐れていると考え、それぞれが棘む様子を示し、転じてこれに限らず三者が互いに牽制し合い身動きが出来ない状を表す。これを身近にできるものは、グー！チヨキ・パーの「ジャンケン」で、全く同じ構造である▼この構造、我が国を取巻く国際情勢にも言えるのではないか。日中韓の三国は、隣国である故に経済的には密接であるも三者共にその歴史的経緯・領土問題などから不仲である。それが経済にも悪影響を落として久しい▼十年前程に囲碁ブームを起こした「ヒカルの碁」という漫画がある。その最終回は、主人公を巻き込んだ日中韓団体戦であった。漫画では誤解を乗り越え三国共通の囲碁文化を通じての友情と互いが更なる研鑽を積む事を約している▼三国は、共通の文化も多く互いに影響し合う関係であったのに小異に拘り不仲を続ける事がいい加減に損であると気付かないのか。この状態を本当に一番喜んでるのは、欧米を始めとした白人の経済圏である。もし、この三国が協調関係を構築するならば、世界経済を牽引して史上に「アジアの時代」と呼ばれるであろう一時代を築く事が出来るのだが…。(佐)

神具・装束・授与品

井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



渡島後、海中での禊を行う一向

危ぶまれていたが、当日は渡島の叶う天候となり、午前七時半、大島渡船「しおかぜ」・「宝栄丸」・「恵比須丸」・「エビスII」・「アクアシャイン」に各々乗船。家族・関係者に見送られ一路沖ノ島を目指した。午前九時には全船沖ノ島に到着。一同直ちに、海中で禊を行



渡島安全祈願祭 (中津宮)

い心身共に清めた後、島の中腹に鎮座する沖津宮本殿へは、四百段に及ぶ参道を進んだ。午前九時三十分、沖津宮本殿にて現地大祭斎行。御神前には全国各地の参拝者からの御神酒・奉献品が供えられ、高向宮司が日本海海戦を顧みて国家・皇室の御安泰、国民の平穏を祈る祝詞を奏上。続いて宮司以下各代表が順次玉串を奉奠、敬虔な祈りのなか滞りなく祭典は終了した。

その後、波止場では、当大社中津宮の氏子組織である沖・中両宮奉賛会、同翼賛会の奉仕



挨拶する高向宮司 (中津宮)

一方、沖ノ島に渡島出来ない女性・子供は、現地の祭典とほぼ同時刻に大島「沖津宮遙拝所」の祭典に参列し、遙か五十キロ先の沖ノ島に祈りを捧げた。

により直会が行われ、刺身、煮魚、その煮汁でいただく素麺などに舌鼓を打ちながら、神の島でのひと時を過ごした。海上模様悪化のため、予定より早い午前十一時半、慌しく各船に乗り込み、荒波のなか沖ノ島を離島、午後一時半には全船が大島に到着。参拝者はその場で解散となり各々帰路についた。

平成二十五年 第一回 氏子会総代総会

五月二十三日、今年度第一回目の氏子会総代総会が氏子会置船会長以下一〇四名出席の下、開催された。

開催に先立ち本殿にて正式参拝、清明殿に移動し、開会。神宮並皇居遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領を一同唱和し、会長、高向宮司が挨拶を行い議事に入った。

置船会長を議長に、前年度の事業・決算報告、本年度の事業・予算案をはじめ、氏子会費取り纏め依頼、氏子会研修旅行、役員改選についてそれぞれ審議頂き、全て承認された。

本年は役員改選の年となり、去る三月の評議員会時に各地区より選出頂いた、昨期の役員の皆様が今期も留任いただくことが承認された。

また、葦津権宮司から本年より愈々進められる平成ノ大造営の件について御造営の計画・予算の説明を行い、皆様への御協力をお願いした。

最後に、本年度より総代・評議員に新たに就任頂いた方々へ

の委嘱状伝達式が行なわれ、該当者を代表して田島地域吉田区の岩佐勝俊評議員に置船会長より委嘱状が手渡され、総会は無事閉会した。

本年度より新たに御就任頂いた、総代・評議員の皆様には今後の大社の諸行事・祭典等への御協力をお願いすると共に引き続き役員・総代・評議員をお引受け頂いた方々にも更なるお力添えをお願い申し上げます。



委嘱状贈呈



「神の島 沖島(おきのしま)」(小学館)出版記念 写真家・作家 藤原新也さん「書」を奉納

写真家・作家の藤原新也さんが六月九日、直木賞作家の安部龍太郎さんとの共著「神の島 沖島(おきのしま)」(小学館)の出版奉告のため参拝、「書」を奉納した。

当日は午前十時に正式参拝、ハリウッド映画の衣装も手掛けるといふデザイナー手作り書行用(藤原さんは揮毫ではなく書行とおっしゃってます)衣装に着替え登場、拝殿の周囲には大

安の日曜日ということもあり、多くの一般参拝者に報道関係者、藤原さんのファンらが見守る中、縦三枚、横二枚の麻一〇〇割の和紙に、「潮の道」「岩力」「残歌」の三枚を力強い筆運びで次々に書き上げた。文字や枚数は接遇した神職にも明かさず、書行後の解説によると「潮の道」は総

社・辺津宮より、中津宮、沖津宮、対島を経て朝鮮半島へ至る海路を、「岩力」は断崖絶壁に囲まれた沖ノ島を、「残歌」は世界でも稀に人の手が入らず僅かな光を発していたという沖津宮周辺域を表現されたとのこと。

五月十七日に小学館より刊行された「沖島(おきのしま)」は、藤原さんが島内の自然や朝日、岸壁などの景観、発見された勾玉や金製指輪など神宝の写真にエッセーを掲載。安部さんは、日本書紀などの史料をもとに国家祭祀を担った宗像一族と沖ノ島が登場する歴史短編小説を、直木賞受賞後初めての作品として選ばれた。

藤原さんは昨年沖ノ島へ二度参拝され、書行後の記者らによる囲み取材では「水平線から米粒のような島がみえると、勾玉のようで感動した」「沖津宮周辺は光を放って気が充滿し、古代の空気はこんな感じかと思っただ」と話された。

また、福島第一原発と相対的にある、人間の力の及ばない、人間の力がほとんど入っていない純粋な自然というものを沖ノ島に感じ、当初写真集を出版するつもりはなかったが、実際に島に渡りその必要性を感じたとも語っていた。



「残歌(さんか)」を書き終え、解説を行う藤原氏

五月十七日に小学館より刊行された「沖島(おきのしま)」は、藤原さんが島内の自然や朝日、岸壁などの景観、発見された勾玉や金製指輪など神宝の写真にエッセーを掲載。安部さんは、日本書紀などの史料をもとに国家祭祀を担った宗像一族と沖ノ島が登場する歴史短編小説を、直木賞受賞後初めての作品として選ばれた。



「潮の道(しおのみち)」



書行後の囲み取材

沖ノ島生態調査報告

カンムリウミスズメと家鼠類の調査

武石全慈 (北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員)
岡部海都 (九州環境管理協会 研究員)

沖ノ島とその属島の小屋島は、オオミスズナギドリ、カンムリウミスズメ、ヒメクロウミツバメなど、海鳥の重要な繁殖地になっています。また、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミのいわゆる家鼠類三種も記録されていて、海鳥の繁殖への被害が懸念され、実際の被害も生じました(本誌第五七七号)。

今年の四月二十五〜二十七日と五月二〜四日(強風のため一日順延)に、宗像大社様の許可を得まして、沖ノ島と小屋島でカンムリウミスズメと家鼠類の調査を行いました。

リウミスズメが繁殖しているのではないかと思われました(本誌第六一七号)。そこで今年も沖ノ島でのカンムリウミスズメの繁殖を確認しようとしてしました。

昨年四月下旬の夜間に行なわれたスポットライトサーベイでは、沖ノ島の北側及び東側の海上でもカンムリウミスズメが見られ、これまで知られていた小屋島だけでなく、沖ノ島でもカンム

また、沖ノ島の家鼠類による鳥類の繁殖への影響が心配されることから、北アメリカや小笠原諸島で島の生態系保全のために家鼠類駆除を積極的に進めている研究者六名を招いて、沖ノ島の状況を見ていただき助言を得ることにしました。それらの方々は、D・ウィットワース氏(アメリカ合衆国)とG・ホーワールド氏、B・M・フィツアール氏、A・ライト氏の三名(カナダ)とO・ラングランド氏(フランス)と橋本琢磨氏(自然環境研究センター)です(写真1)。ウィットワース氏は昨年も来られて調査に協力いただきました。



写真2・ヒナ連れのカンムリウミスズメ



写真1・調査参加者

さて、今回の調査期日は、カンムリウミスズメのヒナの巣立

ち時期である四月下旬と五月上旬に設定しました。カンムリウミスズメのヒナは卵から孵化すると、そのわずかに二日後の夜には、親鳥の鳴き声に誘われて海上へ出ていきます。この時には繁殖コロニーの周辺の海上からは親鳥がヒナを呼ぶ声が盛んに聞かれます。沖ノ島の北側や東側の海岸線は急峻な崖が続くため、陸地から営巣場所を探すことはかなり危険ですし、また入り込めない場所も広くあります。そこでもし海面が静穏な状態であれば、夜間に船で沖ノ島の岸近くを回れば、容易に繁殖コロニーの位置を特定できるものと思われました。しかし残念ながら、この四月下旬は波高が二〜三層もあり、船で回って見たものの全くカンムリウミスズメを見ることができませんでした。五月二日と三日の夜間には船を出すことができましたが、三日に小屋島近くでカンムリウミスズメのヒナ1羽を連れ親鳥2羽を確認したものの(写真2)、沖ノ島の周囲ではヒナ連れの家族は見つけられませんでした。それでも、

夏越の大祓神事 ご案内

恒例の夏越祭が近付いて参りました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日無事に過ごしていただくための祈りを込めた神事でございます。

本年も左記の通り斎行致しますので、皆様お誘い合わせの上御参拝下さいますよう御案内申し上げます。



七月三十一日(水)

午後五時

大祓神事 引き続き

夏越祭斎行



写真3・捕獲されたクマネズミ



小屋島全景 (灯台から望む)

沖ノ島の北側海域ではカンムリウミスズメ成鳥が今回も散見されたことから、沖ノ島に繁殖コロニーがある可能性は依然として考えられました。家鼠類の調査については、五月二日から四日にかけて、沖ノ島では白岳砲台跡から一の岳西側までの旧軍用道路沿い(区画一)と、一の岳山頂灯台から旧社務所位置付近の山林下縁までの登山道沿い(区画二)と、林内中腹の黄金谷周辺(区画三)と港周辺(区画四)で、小屋島ではコロニー周辺(区画五)で行ないました。生け捕り用金網製かごを、沖ノ島では区画当り二十ヶを、小屋島では六ヶを、それぞれ一晩設置しました。その結果、すべてクマネズミで計五匹が捕獲されました

可能なのかについて、両氏らに検討していただくことになっていきます。皆様には、今後もし引き続き沖ノ島・小屋島の鳥類保全につきましまして、関心をお持ちいただけますとありがたいです。

(写真3)。その捕獲場所は、二の岳西側の旧軍用道路沿いの二ヶ所で二匹、灯台直下の登山道沿い(標高三三〇)で一匹、港周辺の海岸と社務所裏で二匹でした。小屋島では捕獲されませんでした。再び家鼠類が沖ノ島の港周辺と林内に生息していることが確認されました。小屋島への再侵入は今年はないようですが、今後の再侵入の懸念があり、可能であれば沖ノ島の家鼠類の駆除が望まれます。ホーワールド氏らによる北米での、また橋本氏による小笠原諸島での家鼠類駆除の実績と今回の視察状況から、沖ノ島・小屋島ではどのような家鼠類対策が今後

平成25年度

世界遺産推進会議開催

小川県知事、沖ノ島を視察

福岡県世界遺産登録推進室



遺跡の説明を受ける、小川知事

五月十八日、福岡県の小川知事をはじめとする「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議委員らが、沖ノ島を視察した。

宗像大社の境内地である沖ノ島は、四世紀後半から九世紀末まで五百年の長期にわたって、対外交流の成就と航海の安全を祈る国家的祭祀が形を変えながら行われていた。こ

のような考古遺跡は他に例を見ないことから、将来にわたって保存、継承していくことを目的とした世界遺産登録活動がはじまった。

沖ノ島と宗像大社及び福津市の新原・奴山古墳群から成る「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が二〇〇九年に世界遺産暫定リストに記載されてからは、県と宗像市及び福津市は、宗像大社をはじめとする文化・教育団体、

五月十八日、福岡県の小川知事をはじめとする「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議委員らが、沖ノ島を視察した。

宗像大社の境内地である沖ノ島は、四世紀後半から九世紀末まで五百年の長期にわたって、対外交流の成就と航海の安全を祈る国家的祭祀が形を変えながら行われていた。こ

二十四年度の事業報告や平成二十五年度の事業計画案、また、前ユネスコ事務局長の松浦晃一郎氏の顧問就任が議案として提出され、承認を受けた。

会議終了後、委員らによる視察に移った。会議前に各自宗像大社辺津宮を参拝していた一行は、神湊港より大島へ向かい、中津宮を参拝する。その後、約一時間半をかけ、沖ノ島へ向かった。沖ノ島に着くと、全員が捷により海で禊をすませた後、宗像大社沖津宮を参拝し、岩陰祭祀や露天祭祀といった古代祭祀遺跡の説明を受けた。沖ノ島を初めて視察し、その価値を体感した小川県知事は、「福岡県の宝、人類の宝である」、「世界遺産登録に向けて、決意を新たにしたい」と語った。

当推進会議では、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録に向け、今後とも官民一体となった取り組みを推進していく。



海の道むなかた館での推進会議

地元コミュニティ代表、経済団体等で構成する推進会議を設置し、官民一体となって世界遺産登録に向けた取り組みを進めている。

視察当日は、午前に宗像大社辺津宮横の海の道むなかた館にて平成二十五年度推進会議が開催され、平成

第37回 小倉百人一首かるた大会



競技風景 於=清明殿

六月八・九・十六日の三日間の日程で第三十七回小倉百人一首かるた大会(主催 宗像大社、全日本かるた協会、主管 九州かるた協会、後援 宗像市教育委員会)が、清明殿・斎館で開催された。

近年の競技かるたブームも冷める事無く、年々参加者が増え続け昨年を上回る、四〇一名となり、今年も三日間の日程で大会が開催された。八日の大会一日目は初心者・シニア級の試合が行われ、総勢九十二名が参加し、初心者は拙いながらも激しく、シニアの部は長年かるとに慣れ親しんだ方々の技巧がぶつかり合った。九日の大会二日目は高校生・大学生・一般を中心に九州・中国地方から総勢二〇八名が参加し、C・D級の試合が行われ、各級とも静かな熱戦が夜間まで繰り広げられた。十六日の大会三日目はA・B級(有段者)の試合が行われ、九州・中国地方はもとより、遠くは関東からも多くの実力者が集まり一〇一名が参加する中、非常に高いレベルの攻防戦が繰り広げられた。

A級 43名	優勝 指宿 立 (九州かるた協会) 準優勝 渡司 浩二 (東京外国語大学かるた会)
B級 58名	優勝 秋吉 結衣 (大分県かるた協会) 準優勝 松本 ゆり子 (大分県かるた協会)
C級 74名	優勝 深町 巴 (大分県かるた協会) 浦里 桃子 (九州かるた協会)
D級 134名	優勝 加藤 はるか (ノートルダム清心中学・広島県) 加藤 怜奈 (ノートルダム清心中学・広島県) 黒田 萌絵 (ノートルダム清心中学・広島県) 橋口 茜里 (佐賀県かるた協会) 北村 可奈 (はかたもみぢ会・福岡県)
中学生以上 31名	優勝 内田 美侑 (長与かるた会・長崎県) 富永 誉子 (中津ややま会・大分県)
小学生 46名	優勝 平田 恵美 (長与かるた会・長崎県) 松木 莉子 (中津ややま会・大分県)
シニア級 15名	優勝 細川 玲子 (北九州かるた会・福岡県)

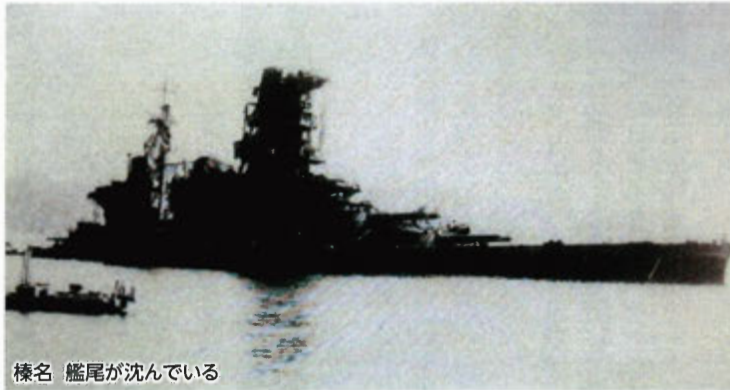
その結果、九州かるた協会所属の指宿立氏が三月に行なわれた大会に引き続き勢いにのり、二度目の優勝を勝ち取った。またB級の決勝戦は同じ高校のかるた部同士の対戦となり、抜きつ抜かれつの試合の末、秋吉結衣氏が優勝を勝ち取った。地元福岡だけではなく県外選手も慣れない環境の中善戦していた。今大会も規模の大きな大会となったが、大会関係者・選手の協力により大会は無事終了。試合中はお互いの主張のぶつかり合い等が起きてはいたが、試合終了後は互いの健闘を称え合い、来年の再戦を誓い大社を後にした。



B級決勝戦

第42回「宗像大社短歌大会」のご案内

- ◆主催 「宗像大社短歌大会」実行委員会
- ◆日時 平成25年11月17日(日)
 - 小中高生の部… 9:30~11:00
 - 一般の部…12:00~15:40
- ◆会場 宗像大社「清明殿」(宗像市田島2331)
- ◆応募方法
 - 詠草…小中高生は1人1首。一般は1人2首まで可(未発表のもの厳守)。B4の400字詰め原稿用紙の右半分を楷書で作品(固有名詞など難読語にはふりがなを)、左半分を郵便番号・住所(マンション名も)・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を明記のこと。小中高生は学校・学年も明記のこと。
 - 出詠料…1首1,000円(定額小為替にて。小中高生は無料)。
 - 詠草集送付のための切手(50円切手2枚)を作品と同封のこと。
 - 締切日…一般=平成25年8月31日(土)(当日消印有効) 小中高=平成25年9月9日(月)(当日消印有効)
- 送り先…〒811-4175 宗像市田久5-25-17 「宗像大社短歌大会」実行委員会事務局 宛 [小][中][高][一般]の別を朱書きのこと。
- お問合せ先…上記の送り先へ往復葉書で。
- ◆選者 小中高生の部=桜川冴子 (敬称略・50音順) 一般の部=青木昭子・桜川冴子・中西輝磨・野田光介 ※講演(一般の部)=黒瀬珂瀾 題目=「街角の歌-過去から現在へ」
- ◆発表 平成25年11月17日(日) 大会当日 選考結果送付希望の方は、結果送付代(50円切手2枚)を同封して下さい。
- ◆賞 小中高生の部=宗像市長賞他 一般の部=福岡県知事賞他
- ◆共催 毎日新聞社
- ◆後援 福岡県・福岡県教育委員会・宗像市・宗像市教育委員会・福津市・福津市教育委員会・宗像大社・宗像大社氏子会 ※応募によって得られた個人情報、本大会以外のごことに利用しません。



榛名 艦尾が沈んでいる

昭和十九年、榛名は日本国内に戻ったが、燃料不足も深刻であった。そして三十ノット高速戦艦として、その力を發揮することはなかった。「榛名は捷号作戦に参加後、昭和十九年十一月に内地へ帰投し、二十年四月に予備艦となった。そ

の後六月に呉鎮守府の特務警備艦となり、呉港外の江田島小用沖に、疎開繋留された。しかし二十年七月二十四日および二十八日に米艦戦機に、攻撃され、多数の命中弾と、おびただしい至近弾により船体が大破し、浸水着低した(写真太平洋戦争、10巻光人社)。「榛名」は金剛級四隻のなかで、最も旧式な装備の戦艦であったが、最後まで生き残り、呉軍港湾対岸の小用海岸の浅瀬に着底したため、終戦後に引揚げられて解体された(日本軍艦百選)多くの艦が南海に沈んでいたが、国内で日本人の手によって解体されたのは幸運であった。

昭和二十年八月十五日、日本はポツダム宣言を受諾、戦争は終結した。この時、海軍兵学校生の乾尚史は、兵学校から去る時、船上から湾内の状況を見ている。「緑陰二潜ミシ敗残ノ艦影アマタ。先ヅハ右手・曾遊ノ長浜海岸ノ東二見エ来シハ、左舷二傾キテ着底シタル「撰津」ナリ。次イデ左手遠クニハ右舷二傾キテ着底シタルトオボシキ「磐手」、頭ヲ右ニ返セバ、ナント三月前ノ乗艦実習ノ思ヒ出モ鮮カニ、横ザマニ倒シ伏シタル栄光ノ「出雲」アリ。相続ク大艦ハ艦尾ヲ沈メテ着底ノ「榛名」と続く。磐手、出雲は日露戦争に活躍した装甲巡洋艦である。「ヤハリ、ワガ海軍ハ敗レシナルカ、連合艦隊ハ潰エシナルカ」(海軍兵学校ノ最期・至誠堂)



観手

(続)



279

いしただし



参拝規制のお知らせ

7月4日(木)、午後からは特別参拝により、下記の通り規制をさせていただきますので、ご理解とご協力の程、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

規制内容・時間

- 祈願殿及び第一駐車場以外の立入制限 13:00~16:30
- 祈願中止 13:30~16:30
- 神宝館 終日閉館
- 第2駐車場 終日閉鎖
- 第3駐車場 関係車輛のみ

見学を終えて、田村権宮司から、神宝館を案内していただいた。神宝館には、笠崎宮楼門に掲げられていた「敵國降伏」の額。これは龜山上皇の御宸翰(ご親筆)三十七枚のうち一枚を桃山時代に模写拡大したものである。現在新しい額となっているが平成十三年から十八年に改修工事が行われ、その時に四一〇年ぶりにかえられたものである。



額は楼門高く小さく見えるが、館内で見ると二メートルほどの実に堂々として迫力があつた。敵國降伏の宸翰、花岡萬舟の元寇の油絵、復刻した蒙古襲来絵詞、元寇の蒙古軍の二個の青半弓と矢、蒙古軍のドラは至元八年(一二七二)五月の銘があつた。福岡市東区の元寇史料館にも蒙古軍の甲冑・馬具の鎧がある。愛媛県の大山祇神社には、元寇の際に活躍した河野道有が奉納した蒙古軍の青や半弓や矢が展示されていた。蒙古軍との戦いで戦功のあかしとして分捕ったものが伝世されてきたのであろう。共に貴重な歴史資料である。

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



評 空低く雲墨色の磐座の鴉がわれに寄る恐ろしさ
 映画「鳥」ではないが、鴉に襲われそうな不安を感じた作者か。初句・二句は(墨色の雲垂れこめる)では。

福津市 若木台 山崎 公俊

評 一面の青き麦田の細道を自転車こぎて良き汗をかく
 春の麦畑を走る爽快さが良く出た一首。決まり文句の良き汗にもう一工夫を。

うきは市 浮羽町 向 則正

評 戦いと飢餓も知りたり半世を励みしはずの吾の小さき
 何かのはずみに器の小ささを感じたのか。自分を客観的に見る姿勢が良い。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

評 一むかし二むかし前の服を着て何はばからぬ吾におどろく
 お洒落だった作者が今は古い服も大切に着ている。自分で驚く作者が面白い。

宗像市 土穴 山本 静子

評 キウイ棚夫の作れば早々と二羽の鳥が並んで止まる
 鴉は棚を良い止まり木だと見ているのだろう。早速来たな、と見ている作者。

宗像市 日の里 大和美由紀

評 大輪の椿一りんさしたるに今朝洗面台に紅く散りをり
 紅い椿が印象的。(挿しおきし大輪の椿一りんが)と語順を変えたい。

福津市 中央 池浦千鶴子

評 竹林とたけはやしではイメージが断然違ふ聴覚映像
 発想が新鮮。漢字では同じ字なのに、耳で聴けばイメージが違うチクリンとたけはやし。聴覚映像は作者の造語だろう。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

評 初鳴きの蛙の声よ庭内は確かなれども在り処掴めず
 季節を感じさせる蛙の姿を探す作者が見えてくる。二句は(蛙の声す)に。

宗像市 池田 森 龍子

評 五十音、アルファベットの緒を見れば宇宙はあつ!と始まりぬべし
 発想がユニーク。だが宇宙の始まりに結び付けるには今一つ説得力が欲しい。

宗像市 田久 巻 桔梗

評 野茨の花盛りなる切り岸を過ぐれば間なく君の家なり
 茨の咲き盛る崖の先の家を訪ねる作者。結句を(君の住む家)としても良い。

福津市 若木台 野間 精一

評 故郷の訛りなつかし友集いアトが結ぶコレクション展
 旧友の懐かしさ。二句以下を(なつかしき友集う)わがコレクション展に)。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範

◆ 選者詠

梅雨寒の夜半にわが膝舐めをれる猫のとげもつ舌あたたかし
 休日を二階にこもり仕事する夫のあしおと天井に聞く

第五九六回

俳句作品集

宗像市 武丸 白土 凌一
 燕来て夏を知りなん軒先に

宗像市 日の里 石松 弘次
 吉祥寺藤棚垂れて蛇の飛ぶ

宗像市 多禮 早川 祥三
 絶海の哀しき祈り海戦忌

7月祭事暦

1・15日 **月次祭**
 午前10時～ 高宮祭、第二宮・第三宮祭
 宗像護国神社祭(1日)
 午前11時～ 総社祭
 浦安舞奉奏(1日)
 豊栄舞奉奏(15日)

26日 **第58回 中津宮七夕揮毫会**
 午前9時～於=大島・中津宮

31日 **夏越の大祓神事**
 午後5時～ 大祓式 於=神門前
 引き続き 夏越祭 於=本殿

編集後記

「じえじえ」でおなじみの、朝の連続テレビ小説「あまちゃん」。小生も楽しく拝見させてもらっている。このドラマは「北限の海女」を題材にした話であるが、じつは当地にも「海女」が存在する▼県内随一の水揚げを誇る漁師町である宗像市鐘崎。諸説あるようだが、この鐘崎は「西日本の海女発祥の地」であるとされています▼女性が素潜りで貝や魚を漁獲する海女文化は韓国の濟州島と日本にしかないと言う。外国との文化の出入り口であったこの地に、韓国濟州島の海女漁が伝わり、これが航海術に秀でた宗像海人族により、日本海側沿いに広められ、遠くは石川県の輪島にまで伝わったとされている▼もうすぐ宗像七浦も海開きが行われ、海水浴シーズン到来。海遊びに疲れたら、このような歴史を探して見てはどうでしょうか。宗像の海には古代のロマンがあふれています。(鈴)

発行所
宗像大社社務所・宗像会
 住所 千八一一三三〇五
 福岡県宗像市田島一三三三
 電話 (0940)611332(代)
 発行人 葦津幹之
 編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
 制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行
 定価1年送料共 1,000円